

Title	政策形成プロセスへの市民参画：オリンピック・パラ リンピック、ロボット、地方創生を例に
Author(s)	加納, 圭
Citation	年次学術大会講演要旨集, 30: 549-552
Issue Date	2015-10-10
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/13336
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載す るものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

政策形成プロセスへの市民参画 -オリンピック・パラリンピック、ロボット、地方創生を例に-

○加納圭（滋賀大学・京都大学）

要約

政策形成プロセスへの市民参画のためのツールの1つとして「対話型パブリックコメント」を「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」の1プロジェクト PESTI（＝ペスティ）の成果の1つとして開発した。夢ビジョン 2020、夢ビジョンアクションプランやオリンピック・パラリンピックレガシー、ロボットと未来、鳥取県の地方創生プランといったテーマに対話型パブリックコメントを適用した事例に基づいて、国民の意見やニーズを政策形成プロセスに活かす方法について考察する。

1. はじめに

2011年度から2015年度までの我が国の科学技術イノベーション政策のバックボーンとなっている第4期科学技術基本計画は、本来2011年3月末に閣議決定される予定だったが、東日本大震災を受けて見直しがなされ、同年8月に閣議決定された。同基本計画では、国民の政策過程への参画の促進が謳われており、「政策の企画立案、推進に際して、意見公募（パブリックコメント）手続の実施や、国民の幅広い参画を得るための取組を推進する」とある（文部科学省、2011）。

このような中、我々は国民の政策過程への参画促進を目指し、科学技術イノベーションに対する国民のニーズを科学技術イノベーション政策形成過程に反映させるための方法論・仕組みを開発・構築・実装することを活動の中心に据え、その活動を通じて、より民主的かつ根拠に基づいた政策形成の実現を目指すプロジェクト PESTI（＝ペスティ）を2012年から始めている。PESTIは、「STI（科学技術イノベーション）に向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計」（プロジェクトの英語名は Framework for Broad Public Engagement in Science, Technology and Innovation Policy）の略称である。PESTIは、独立行政法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）が2011年に開始した「戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）：科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」の1プロジェクトである。また同プログラムは、文部科学省が進める科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業（SciREX＝サイレックス）の1つとしても位置づけられている。

PESTIはオーストラリア・ヴィクトリア州政府が開発したセグメンテーション法（Victorian Department of Innovation, Industry and Regional Development, 2007）を用い、科学技術イベントへの参加者層が「科学技術への高関与層」に偏っていることを明らかにするだけでなく（加納ら 2013）、「科学技術への高関与層」ほど科学技術イベントへの参加意向が高いことを明らかにしてきた（後藤ら 2014）。さらに、「科学・技術への高関与層」は政策形成に関与しようという意向が強く、政治的有効性感覚の内的有効感が高いということも明らかにした（後藤ら 2015）。つまり、従来の科学コミュニケーションの方法では「科学技術への低関与層」からの意見が聞きづらい可能性があることが示唆されている。そこで PESTI は、「科学技術への高関与層」だけでなく「科学技術への低関与層」もが政策形成プロセスへ参画できるフレームワークの構築を行ってきた。その成果の1つ

として「対話型パブリックコメント」（以下、対話型パブコメ）という政策形成プロセスへの市民参画のためのツールを開発した。

2. 対話型パブリックコメント

対話型パブコメは、従来のパブリックコメントを発展させた、新しいパブリックコメントの仕組みで、1. 「科学技術への低関与層」をも包摂するため、様々な場におもむき、多様な市民の声を積極的に聞きに行く、2. パブリックコメントの背景（意見の収集・集約プロセスや意見が出された文脈・背景、さらに対象地域の特性）も、コメントと一緒に提出する、3. コメントがどのように政策形成に反映されたかを情報公開するだけでなく、希望する意見提出者や社会にフィードバックするという3つの特徴を持つ。京都市基本計画の策定時に市民を中心に編成されたパブコメ部隊（現在はパブコメ普及協会という任意市民団体）が行った攻めのパブコメを参照し考案された（未来の担い手・若者会議 U35、2011）。

PESTI は政策オプションの提案を目的の1つに掲げており、対話型パブコメを通して多様な価値観を持つ市民から、多様な意見を集めることを目指している。その点において、対話型パブコメは合意形成よりも、ブレインストーミング的に多様な意見が出てくることをより重要視している。

（加納ら、2014、Kano, 2015）そこで、対話型パブコメで扱う政策テーマを選定する際には、ステイクホルダーが必ずしも明確でない政策形成プロセスの上流（ビジョン策定など）や新規案件（通常の政策形成プロセスにおいて定常的に取り扱うわけではなく、年月が経過したため前担当者にアクセスできないことにより結果として新規に立ち上げる必要がある場合も含む）を優先するようにした。

これまでに、オリンピック・パラリンピックにおけるビジョン策定（夢ビジョン 2020）、ロボットと未来、鳥取県における地方創生総合戦略などを取り扱ってきた。

3. 対話型パブコメ例

「夢ビジョン 2020」をテーマにした対話型パブコメは2013年9月から2014年11月にかけて13回実施された。最終的に、のべ728人から3556の意見が集まり、3つのビジョンと7つの価値観が導き出された。7つの価値観から3つのビジョンが導かれており、ビジョンと価値観との対応関係は以下の通りで、各価値観を構成する意見数も示した。1つの意見が複数の価値観の構成要素になった場合や、どの価値観の構成要素にもならなかった場合も含まれている。

ビジョン1：対話

価値観1：他者とのつながり・多様性（716意見）

ビジョン2：感動

価値観2：ワクワク・カッコいい（473意見）

価値観3：日本の誇り（825意見）

ビジョン3：成熟

価値観4：安全・安心（594意見）

価値観5：ゆとり（410意見）

価値観6：日本社会の快適性・利便性・効率性（575意見）

価値観7：オープン・適正（85意見）

次に、「ロボットと未来」をテーマにした対話型パブコメは、2015年3月から4月にかけて6回実施された。最終的に、のべ604人から1814の意見が集まり、大きく分けてロボットへのニーズ

とロボット社会へのニーズが導き出された。それぞれに、14, 11 のカテゴリがあり、以下に示すとおり合計 25 カテゴリで構成された。

「ロボット」へのニーズ

- 1 【超人】：危険な作業を代替してほしい (35 意見)
- 2 【超人】：人の能力をエンハンスメントしてほしい (92 意見)
- 3 【超人】：人がやるよりも精度高く作業してほしい (36 意見)
- 4 【パートナー】：相互作用してほしい (話し相手、友だち、性) (92 意見)
- 5 【パートナー】：見守ってほしい (52 意見)
- 6 【パートナー】：エンターテインメントを提供してほしい (20 意見)
- 7 【パートナー】 & 【雑用代替】：自分のやり方で家事や子育てをしてほしい (17 意見)
- 8 【雑用代替】：家事を代替してほしい (178 意見)
- 9 【雑用代替】：介護を代替してほしい (173 意見)
- 10 【雑用代替】：雑用を代替してほしい (139 意見)
- 11 【ヒトらしさ】：「ロボット」に寿命をつけてほしい (10 意見)
- 12 【ヒトらしさ】：「ロボット」が自己管理してほしい (26 意見)
- 13 【ヒトらしさ】：「ロボット」にしなやかさを与えてほしい (22 意見)
- 14 【パートナー】 & 【ヒトらしさ】：愛着がもてる「ロボット」にしてほしい (76 意見)

「ロボット」社会へのニーズ

- 15 「ロボット」に支配される社会にならないでほしい (98 意見)
- 16 経済 (通貨、労働時間) に与える影響を考慮してほしい (61 意見)
- 17 「ロボット」によって生まれる格差を是正してほしい (11 意見)
- 18 法整備をしてほしい (25 意見)
- 19 「ロボット」の人権問題に配慮してほしい (49 意見)
- 20 責任の所在問題を解決してほしい (22 意見)
- 21 開発者に対する倫理教育をしてほしい (8 意見)
- 22 「ロボット」に依存することで、人としての能力が退化しないようにしてほしい (87)
- 23 「ロボット」が暴走しないようにしてほしい (28 意見)
- 24 プライバシー・セキュリティを確保してほしい (32 意見)
- 25 ロボットメーカーへのニーズ (143 意見)

最後に、「鳥取県における地方創生総合戦略」をテーマにした対話型パブコメは 2014 年 11 月から 12 月にかけて 3 回実施された。のべ 303 人から 1830 の意見が集まり、以下の 9 つのカテゴリが見いだされた。

1. 鳥取だからできることを明確にする (364 意見)
2. 人とのふれあいによるみんな感 (62 意見)
3. 鳥取ロールモデルが見える (2 意見)
4. 公共交通機関の充実 (県内・県外) (327 意見)
5. 街灯・道路舗装の充実 (85 意見)
6. 雇用 (98 意見)
7. 若者向けの娯楽施設・設備の充実 (169 意見)
8. 将来、県内で家庭を持つのに必要な (パートナー・住居・子育ての) 支援の充実 (19 意見)
9. その他 (160 意見)

4. 今後の課題と展望

PESTI は、幅広い市民の政策への参画を目標に研究開発を行ってきた。「幅広い」という観点で見れば、市民を一括りにするのではなく、マーケティングリサーチの分野におけるセグメンテーション法を用いた市民のセグメント化が重要だと考えられる。オーストラリア・ヴィクトリア州政府が開発した科学技術への関与の観点からのセグメンテーション法に加え、政策への関与の観点を踏まえたセグメンテーション法の開発が必要となるだろう。その上で、各セグメントのプロファイルを踏まえたターゲティングを行い、多様なセグメントを包摂していく方法や仕組みをさらに洗練させていく必要がある。

また、「政策への参画」という観点からみれば、集めた意見の集約の仕方や届け方といった第3機関として実施する方法論も重要であるし、届けられた意見をどのように受け止め、政策形成に活用するかといった行政側での方法論やマインドセットも重要になってくるであろう。少なくとも、市民の意見を聞いたという事実を道具的に用いることからは一歩踏み込んで、政策形成に実質的な影響を及ぼすことが求められるだろう。

参考文献

- 後藤崇志、水町衣里、工藤充、加納圭 2014:「科学・技術イベント参加者層評価に豪州発セグメンテーション手法を用いることの有効性」, 科学技術コミュニケーション 15 17-35
- 後藤崇志、工藤充、加納圭 2015:「パブリックエンゲージメント参加者層の多様性評価手法の探索:「科学・技術への関与度」と「政策への関与度」の観点から」, 科学技術コミュニケーション 17 3-19
- Kano, K. 2014: "Toward achieving broad public engagement with science, technology, and innovation policies: Trials in JAPAN Vision 2020", International Journal of Deliberative Mechanisms in Science, 3, 1, 1-23
- 加納圭、水町衣里、岩崎琢哉、磯部洋明、川人よし恵、前波晴彦 2013:「サイエンスカフェ参加者のセグメンテーションとターゲティング」, 科学技術コミュニケーション 13 3-16
- 加納圭・工藤充・菅万希子・前波晴彦・水町衣里・吉澤剛 (2014)「科学技術イノベーション政策へのパブリックエンゲージメントー「再生医療」と「夢ビジョン 2020」を対象とした取り組み」平成 25 年度文部科学省委託調査研究「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』の推進に向けた試行的実践」成果報告書、pp.82-101。
- 未来の担い手・若者会議 U35 (2011)『未来の担い手・若者会議 U35 活動報告書』。
- 文部科学省 2011: 第4期科学技術基本計画
- Victorian Department of Innovation, Industry and Regional Development 2007: "Community Interest and Engagement with Science and Technology in Victoria: Research Report June 2007."

謝辞

本研究は、国立研究開発法人科学・技術振興機構 (JST) 社会技術研究開発センター (RISTEX) 戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発) 平成 24 年度採択研究開発プロジェクト「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム: STI に向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計 (PESTI=ペスティ) (代表者: 加納圭)」の一貫として行われた。また、PESTI メンバーの皆さんがいなければ本研究を成し遂げることはできなかった。この場を借りてお礼申し上げる。